

植防いしかわ

編集・発行

公益社団法人 石川県植物防疫協会

金沢市田中町か26-1
石川県農業共済会館内
TEL 076-239-1511

印刷 株式会社 共栄

令和6(2024)年8月15日発行

No. 165

はじめに

会員の皆様をはじめ、関係機関の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

本年元日に発生した「令和6年能登半島地震」でたくさんの方が被害を受け、今もなお避難生活を余儀なくされている方がいます。道路などのインフラも復旧に相当年数が必要な状況となっています。全国の様々な方々のご支援を得ております。本当にありがとうございます。一刻も早く元の能登が取り戻せることを祈っております。

この地震の影響で当協会では、実験展示圃試験が七尾以北で設置できず、会員の皆様にはご迷惑をお掛けしております。来年度は県全域で実施できればと思っております。

本年当協会では、時限的ではありますが職員を一人増員して作物残留試験、薬効薬害試験にこれまでよりも多くの課題に取り組んでおります。これを機会に皆様方ともより多くの試験に係る意見交換など交流ができればと思っております。どうぞ今後とも変わらぬご支援のほどお願いいたします。

公益社団法人石川県植物防疫協会第41回通常総会の概要

令和6年6月21日午前10時30分より、石川県農業共済会館大研修室において、公益社団法人石川県植物防疫協会の第41回通常総会を開催しました。今年は来賓に石川県農林水産部ブランド戦略課の岡部恵課長に出席いただき、審議に先立ちご祝辞を賜りました。その後司会者の桐山隆事務局長技術主幹より、本総会の出席状況について、正会員7団体全てが出席し、定款第25条の議決要件が満たされていることが報告されました。続

いて定款第23条の規定に基づいて田中肇会長理事が議長に就き、中村哲郎氏（石川県農薬卸商業協同組合理事長）と南範彰氏（石川県農業共済組合専務理事）を議事録署名人に選任し、当協会の葛城晴子主事を書記に任命しました。

議案は次の第1号から第5号までが上程され、いずれも武田理事の提案説明の後慎重審議され、全ての議案が原案のとおり満場一致で承認、可決されました。



ブランド戦略課 岡部課長

目次	1. はじめに	1
	2. 第41回通常総会の概要	1
	3. 第50回植物防疫指導者研修会の概要	5
	4. 第35回虫供養の式典	6

第1号議案

令和5年度事業報告承認の件

第2号議案

令和5年度収支決算承認の件

第3号議案

令和6年度年度会費徴収額及び徴収方法
に関する件

第4号議案

理事及び監事の報酬額に関する件

第5号議案

理事及び監事の改選に関する件

第1号議案 令和5年度事業報告承認の件

1 病害虫等防除推進事業

〈事業の内容〉

農作物や花木類に発生する病害虫や雑草の防除法に関する指導・助言、関連情報の提供、植物防疫研修会の開催、農薬適正使用の啓発等を通じ、安全で安心な県産農産物の安定生産に寄与する事業である。

(1) 防除相談・指導業務

- ・現場指導者から持ち込まれる病害虫等の診断・同定と防除指導、野菜の栽培法についての相談 10件
- ・県が編集する「農作物病害虫・雑草防除指針」を増刷(360部)し、会員、現場指導に携わる農業団体等に提供

(2) 農薬危害防止啓発業務

- ・農薬危害防止キャンペーン(6月1日～8月31日)にあわせ、チラシ5,400枚を作成・配布

(3) 研修会開催業務

- ・令和5年7月11日に石川県地場産業振興センターで開催
「天敵を活用した果樹の持続的ハダニ防除体系」
農業・食品産業技術総合研究機構植物防疫研究部門 外山晶敏氏
- ・参加者は、市町・JA・NOSAIの植物防疫担当者のほか、農業試験場の研究員、農薬卸・販売業者、農薬メーカーのプロパー等62名

(4) 広報業務

- ・会報「植防いしかわ」を年3回発刊
当協会の行事や事業の進捗状況、除草剤・殺菌・殺虫剤の実験展示圃成績等を掲載し、会員、市町、農業団体等に紹介
- ・県が発表する病害虫発生予察情報(年8回)を毎回増刷し、JA、NOSAI等の現場指導者、農薬卸業者等に伝達するとともに、当協会のホームページにも掲載して農家や一般県民に周知

(5) 無人ヘリコプター防除推進業務

- ・水稻、大麦、大豆等の病害虫に対する無人ヘリコプターによる防除について、石川県農業用無人ヘリコプター運営協議会との連携のもと、オペレーター、ナビゲーターに対する安全講習会をリモート(Zoom)を併用して令和6年3月25日に開催、参加者44名
「無人航空機防除における安全運航」

ヤマハ発動機株式会社ソリューション
事業本部UMS事業推進部
服部 寛氏

2 農薬試験事業

〈事業の内容〉

農薬による病虫害及び雑草の防除を安全かつ効率的に実施することを通じて県産農産物の安定生産・安定供給を図る目的のもと、防除効果の高い開発未登録農薬の農薬登録に向けた圃場試験を実施した。

また、新規に登録された農薬の農家への普及に先立ち、県内各地で試験的に使用して現地適応性を検証する試験を実施した。

(1) 開発未登録農薬の実用性試験

農産物の安定生産・安定供給には、病虫害や雑草の防除を安全かつ効率的に実施することが重要であり、そのためには防除効果がより高く、毒性がより低い新農薬を迅速に農家に普及する取り組みが必要となる。

新農薬の登録審査に必要な薬効・薬害・作物残留に関する一連の試験を「開発未登録農薬の実用性試験」として、石川県農林総合研究センターとの連携のもと、令和5年度は86剤（前年94剤）

の試験を受託し、当協会では44剤（前年49剤）を試験し、残り42剤（前年45剤）は石川県農林総合研究センターで試験した。

(2) 新規登録農薬の現地適応性試験

新規に登録された農薬について、農家普及に先立ち県内各地で試験的に使用し、効果の安全性、薬害発生の有無等を確認する試験を実施した。令和5年度は36剤で「普及性あり」の判定結果が得られた。



議案審議の様子

第2号議案 令和5年度収支決算承認の件

決算書類として貸借対照表、正味財産増減計算書の概要表を以下のとおり掲載します。

貸借対照表

令和6年3月31日現在

(単位：円)

勘定科目	当年度	前年度	増減
流動資産合計	1,421,841	2,664,742	△1,242,901
固定資産合計	14,180,000	13,658,000	522,000
資産合計	15,601,841	16,322,742	△720,901
流動負債合計	1,229,086	1,132,280	96,806
固定負債合計	6,380,000	5,558,000	822,000
負債合計	7,609,086	6,690,280	918,806
正味財産合計	7,992,755	9,632,462	△1,639,707

正味財産増減計算書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

(単位：円)

勘定科目	当年度	前年度	増減
受取会費計	2,400,000	2,430,000	△30,000
事業収益計	30,931,923	34,699,544	△3,767,621
受取補助金等計	1,517,100	1,493,820	23,280
雑収益計	601,999	1,092,935	△490,936
経常収益計	35,451,022	39,716,299	△4,265,277
事業費計	34,769,161	36,815,851	△2,046,690
管理費計	2,321,568	3,522,847	△1,201,279
経常費用計	37,090,729	40,338,698	△3,247,969
当期経常増減額	△1,639,707	△622,399	△1,017,308
一般正味財産期首残高	9,632,462	10,254,861	△622,399
一般正味財産期末残高	7,992,755	9,632,462	△1,639,707

第3号議案 令和6年度会費徴収額及び徴収方法に関する件

正会員7団体計28口、84万円、賛助会員33会員、1口(3万円)以上とし、令和6年9月2日までに振り込む。

第4号議案 理事及び監事の報酬額に関する件

理事報酬は年額80万円以内、監事報酬は年額8万円以内とする。

第5号議案 理事の改選及び監事の補欠選任に関する件

新たに選任された方、再選された方は次のとおりです。

※会長理事、副会長理事については、総会終了後の理事会にて選任されました。

役職	氏名	所属
会長理事(再任)	田中肇	石川県農業共済組合組合長理事
副会長理事(再任)	西利章	石川県農業協同組合中央会専務理事
理事(再任)	末政満	全国農業協同組合連合会石川県本部県本部長
理事(再任)	中村哲郎	石川県農薬卸商業協同組合理事長
理事(再任)	西沢耕一	石川県野菜園芸協会会長

役 職	氏 名	所 属
理 事（再任）	大 田 昇	石川県果樹園芸協会副会長
理 事（再任）	山 崎 浩 一	石川県森林組合連合会副会長理事
理 事（再任）	武 田 康 一	公益社団法人石川県植物防疫協会事務局長
監 事（新任）	中 西 良 祥	全国農業協同組合連合会石川県本部副本部長
監 事（新任）	荒 井 守	石川県農業共済組合参事

第50回植物防疫指導者研修会の概要

7月17日（水）に第50回植物防疫指導者研修会を石川県地場産業振興センターにおいて開催しました。京都府農林水産技術センター生物資源研究センターの徳丸晋虫氏を講師にお招きし、「ハモグリバエ類の発生生態と防除法」についてご講演いただきましたので、その概要を紹介いたします（当日使ったパワーポイントの画像は、著作権の関係で掲載しておりませんことをご了承ください）。

①ハモグリバエには6種の発生種が確認されている。

トマトハモグリバエ（外来種）

マメハモグリバエ（外来種）

ナスハモグリバエ（在来種）

アシグロハモグリバエ（外来種）

ナモグリバエ（在来種）

ネギハモグリバエ（在来種）

②主な寄生植物は果菜類、葉菜類であるが種により異なる。

③葉菜類では、少しの食害でも被害株となるので、防除は重要である。

④防除対策としては、

- ・発生初期の薬剤散布（ただし種により殺虫効果は異なる）

→アフーム乳剤は、どのハモグリバエのどの



講師の徳丸晋虫氏

生育ステージでも概ね効果がある。

- ・黄色粘着フィルム、防虫ネット、光反射ネットなどの設置

→黄色粘着フィルムの効果を、敵に沿って水平に設置する場合と垂直に設置する場合を比較すると、水平に張った方が誘殺効果は高い。

- ・土着天敵の保護活用（天敵に影響の少ない薬剤の併用）（土着天敵が働いていてハモグリバエが少なくなっている）

→ハモグリミドリヒメコバチはどのハモグリバエにも寄生する。

⑤ネギハモグリバエの簡易識別法としては、絵描き痕が途切れて不規則のときは“バイオタイプA”、絵描き痕がひとつなぎで直線的であれば“バイオタイプB”である。

※参加者は、総勢で78名でした。

※ハモグリバエについては次の書籍が上梓されています。

「ハモグリバエ防除ハンドブック」

徳丸晋、農文協



研修会の様子

虫 供 養 の 式 典

農林総合研究センター農業試験場構内の虫塚にて、6月4日17時30分より今年で35回目となる虫供養の式典を執り行いました。

石川県庁からブランド戦略課の岡部課長、県農林総合研究センター農業試験場からは藪所長以下10名の方がご参列くださいました。



本教寺ご住職による虫供養



虫塚



編 集 後 記

今年の夏も昨年と同様に“危険な暑さ”となっております。降水量も大変少ない状況です。冬も同様に気温が高いのが当たり前になってしまうと、降雪量も少なく白山の積雪量が少なくなり“水不足の夏”が常態化してしまいます。東南アジアの人たちに亜熱帯での快適な生活の方法を学ぶ時が来ているのでしょうか。